

表 10 - 1 経験年数別得点の平均値および分散分析結果（外来業務）

A=経験年数 5 年未満  
 B=経験年数 5 年～ 10 年未満  
 C=経験年数 10 年以上

	A N=307	B N=184	C N=266	F 値	群間比較
妊婦健康診査	2.20 (1.12)	2.38 (1.18)	1.94 (1.13)	8.41***	A>C,B>C
不妊症患者の診療介助	1.65 (0.94)	2.14 (1.15)	2.09 (1.18)	16.38***	A<B,A<C
妊婦の個別保健指導	2.60 (1.08)	3.04 (1.01)	2.93 (1.02)	11.85***	A<B,A<C
妊婦の集団保健指導	2.57 (1.10)	2.84 (1.10)	2.83 (1.17)	4.90**	A<B,A<C
思春期相談	1.03 (0.28)	1.11 (1.42)	1.13 (0.43)	5.60**	A<C
更年期相談	1.11 (0.48)	1.15 (0.45)	1.24 (0.61)	4.19*	A<C
電話訪問	1.82 (1.09)	2.13 (1.19)	1.98 (1.14)	4.33*	A<B
患者搬送	2.27 (1.20)	2.59 (1.19)	2.58 (1.18)	6.20**	A<B,A<C
受付窓口業務	1.76 (1.08)	2.29 (1.27)	2.21 (1.23)	15.44***	A<B,A<C
他部門との連絡・調整	2.26 (1.15)	2.62 (1.26)	2.77 (1.22)	12.88***	A<B,A<C

上段は平均値、下段（ ）は S.D

\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05

表 10 - 2 経験年数別の平均値および分散分析結果（病棟業務）

A=経験年数 5 年未満  
 B=経験年数 5 年～ 10 年未満  
 C=経験年数 10 年以上

	A N=367	B N=200	C N=303	F 値	群間比較
医師が行う異常分娩介助の補助	2.88 (1.07)	3.26 (1.06)	3.26 (1.02)	13.89***	A<B, A<C
分娩時の膣会陰切開術の実施	1.27 (0.73)	1.54 (1.01)	1.56 (0.89)	11.40***	A<B, A<C
褥婦の個別保健指導	3.29 (0.94)	3.51 (0.89)	3.50 (0.84)	6.15**	A<B, A<C
不妊検査・治療の介助	1.57 (0.93)	1.80 (1.03)	1.86 (1.13)	7.40***	A<B, A<C
不妊症患者の生活行動の援助	1.45 (0.89)	1.66 (1.01)	1.71 (1.10)	6.16**	A<C
不妊症患者の診療の補助業務	1.60 (0.95)	1.91 (1.11)	1.87 (1.16)	7.48***	A<B, A<C
婦人科患者の生活行動の援助	2.62 (1.22)	2.76 (1.28)	2.88 (1.17)	3.57*	A<C
婦人科患者の診療の補助業務	2.61 (1.23)	2.77 (1.28)	2.94 (1.16)	5.90**	A<C
婦人科患者の手術の介助	1.48 (0.94)	1.65 (1.13)	1.76 (1.15)	5.78**	A<C
書類・伝票整理	3.34 (1.02)	3.50 (0.95)	3.54 (0.90)	3.82*	A<C
患者の搬送	3.02 (1.16)	3.42 (0.95)	3.42 (0.89)	16.14***	A<B, A<C
他部門との連絡・調整	3.04 (1.05)	3.51 (0.85)	3.58 (0.76)	32.17***	A<B, A<C
産科・婦人科以外の疾患患者の生活行動援助	2.29 (1.19)	2.49 (1.28)	2.74 (1.22)	11.42***	A<C
産科・婦人科以外の疾患患者の診療の補助業務	2.15 (1.18)	2.45 (1.28)	2.61 (1.20)	11.73***	A<B, A<C
学生・研修生への教育指導	2.75 (1.03)	3.30 (0.95)	3.47 (0.85)	50.79***	A<B, A<C
病棟管理業務	1.54 (0.91)	1.90 (1.06)	2.44 (1.16)	60.74***	A<B<C

上段は平均値、下段（ ）は S.D

\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05

表 11 今後充実が必要な業務

(N=901 複数回答)

大項目	小項目
乳房の管理・ケア(298)	乳房のケア(246) 母乳外来(33) その他(19)
妊婦の保健指導(230)	妊婦の保健指導(85) 妊婦の個別保健指導(84) 母親・両親学級(39) 妊婦の集団保健指導(22)
産婦の看護(179)	分娩介助(83) 産婦の生活行動援助(39) 分娩進行の査定(32) 産婦の望む自由な分娩(20) その他(8)
褥婦・新生児の退院後の 継続看護(175)	家庭訪問(65) 育児相談・指導・援助(43) 電話訪問(32) その他(35)
褥婦の保健指導(126)	褥婦の個別保健指導(91) 褥婦の保健指導(20) 褥婦の集団保健指導(12)
マタニティサイクル以外 の女性の看護(122)	思春期相談・指導(59) 更年期相談・指導(28) 家族計画指導(18) その他(17)
妊婦の健康診査(97)	助産婦外来(60) 妊婦健診(29) エコー診査(8)
不妊症治療患者の看護(70)	不妊相談(18) 不妊症患者の生活行動援助(14) 不妊症治療患者へのかかわり(13) その他(25)
新生児の看護(69)	異常新生児の看護(42) 正常新生児の看護(25) その他(2)
治療妊婦の看護(39)	治療妊婦の生活行動援助(30) その他(9)
婦人科患者の看護(18)	
その他の保健指導(74)	
その他の看護(48)	
学生・研修生への指導(36)	
その他(51)	
なし(4)	
無回答(266)	

( ) 内は回答数

諸外国における助産婦活動と助産婦の教育

分担研究者 加藤 尚美 沖縄県立看護大学

研究要旨：海外における助産婦活動及び助産婦の教育の実態、動向を知り今後の助産婦の業務・教育に資することを目的に調査を行った。11カ国の助産婦へのインタビューにおいて業務では、助産が助産婦の手で主体的に行われていること、助産婦によるピルの処方が認められていること、免許の更新制度などである。助産婦の教育は、看護教育を経ないで直接助産婦教育を受けられることや、米国では助産婦の資格は大学院で取得することが主流になってきている。海外では出産や助産婦教育の変革が起きているとも伺えた。ニュージーランドでは助産婦による開業が48%を占め、助産婦が女性の健康の責任者として活躍している。我が国の助産婦の業務・教育のあり方に多く示唆を得た。

研究協力者

賀数いづみ：沖縄県立看護大学 助手

A. 研究目的

海外における助産婦の活動および助産婦の教育の実態、動向を知り今後の助産婦の業務・教育について、検討する事を目的とした。

B. 研究方法

1. 調査対象と調査方法

1) 1999年5月22-27日国際助産婦連盟マニラ大会参加者で同意・協力を得られた助産婦を対象に質問調査用紙に基づきインタビューを行い、11ヶ国20人から回答を得た。

質問内容は、①助産婦の名称②助産婦を規定する法律とその制定年③助産婦籍登録機関④助産婦数⑤免許更新の制度⑥助産婦養成課程の種類と教育機関および学校数⑦助産婦の主な勤務場所とその頻度⑧開業の有無・形態⑨処方権の有無⑩助産婦の業務内容である。（別添資料）

C. 研究結果（別添資料NO.1・2）

1. 助産婦の呼称

わが国の助産婦という名称と同じくMidwifeの名称が主で、米国ではCNM(Certified-Nurse-Midwife)CPM(Certified-Professional-Midwife)SLM(State Licenced Midwife)とそれぞれ資格の取得の仕方によって異なるようである。英国、オーストラリア、モロッコ、カンボジアはMidwifeの名称をニュージーランドはRegistered-Midwife、イスラエルではNurse Midwife、バングラデッシュでは、F.W.V.(Family welfare visitor)であった。

2. 助産婦を規制する法律と助産婦籍の登録

日本においては1948年保健婦助産婦看護婦法により助産婦の名称、業務等が規制されており英国においては、1902年助産婦法、1979年には英国中央看護婦助産婦保健婦協議会(UKCC)で看護婦助産婦保健婦法ができ、助産婦の業務についても規制されている。英国ではすべての出産に助産婦が関わらなくてはならないと規定され、平等なサービスが受けられるようである。

助産婦の登録は、英国中央看護婦助産婦保健婦協議会(UKCC)である。米国、オーストラリアでは各州においては各州で定めた看護婦、助産婦の法律があり、各州の看護婦会に登録される。ニュージーランドにおいては1971年に看護婦法がその後1990年看護婦法を改正、助産婦法を成文化した。

3. 男性助産士の有無

本調査11カ国の中で男性の助産婦が導入されているのは、イスラエル2名、ニュージーランドは9名、米国では助産婦の約3%、英国では約100名他の国は女性のみ職業であった。

4. 資格の更新制度

免許の更新制をとっている国はモロッコ、インドネシア、バングラデッシュ、米国、英国オーストラリア、ニュージーランドである。

5. 助産婦養成課程の種類

米国では大学院における教育が主であり、英国では助産婦課程のみのダイレクトコース及び大学が主流を占めている。オーストラリアの助産婦教育はすべて大学で取得する。また、ニュージーランドにおいても大学院ができている。

6. 助産婦の主な勤務場所

日本においても助産婦の働く場所は、病院であるが諸外国においても同様に助産婦は病院で働いている。イスラエルでは100%が病院出産であり、米国、英国、オーストラリアは80%以上である。スイスでは病院が60%、診療所20%でバースセンターが20%である。ニュージーランドでは病院が42%、開業助産所48%、産科ユニット10%である。

7. 助産婦の開業権

11ヶ国すべてが助産婦の開業権を持っている。正常分娩と周産期のケアはどの国も助産婦た。また、ニュージーランドでは出産を含め女性のすべてのケアに責任を持っているとし、助産婦の業務範囲が広いことが伺えた。英国では助産婦自身が個人で助産院を開業することではなく、自宅分娩等が主流である。しかし最近では病院に付属したバースセンターの開設もされ妊産婦の需要も大きいようである。米国においてはリスクの低い出産を病院から開放する手段

として助産婦によってバースセンターが開発されている。

#### 8. 薬の処方（主にピル）について

日本では助産婦が薬の処方をするということ認められていないため、ピル等の認可があっても処方することはできない現状である。しかし英国では英国病院協議会認可薬があり、ピルの他分娩に必要ないくつかの薬の処方は認められており助産婦の判断で使用している。ネパールではピルは処方なしに入手できる。インドネシア、バングラデッシュ、カンボジア等においても助産婦によるピルの処方は許されている。

#### 9. 助産婦の業務（別紙添付資料）

調査のすべての国の助産婦が行っている業務は、妊婦の診察、指導、検査、頭位分娩介助、酸素吸入の処方、分娩時の児の蘇生、家族計画の指導であった。本調査対象の米国、英国、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシアの助産婦業務は、共通するものが多く会陰切開・縫合、子宮収縮剤の使用、褥婦の診察・保健指導、新生児の診察などは主体的に行っている。吸引分娩は卒後研修の後許可されている等もある。ニュージーランドやインドネシアにおいては、助産婦の活用は広く多くの業務が許可されている。

米国では助産婦による出産の割合が毎年増加しており1997年にはアメリカの出産全体のうち助産婦の介助する出産は7%であった。その後その割合は増加していると思われる。

10. 思春期の相談事業については開発途上国は未だ助産婦の業務ではない。しかし先進諸国は助産婦業務として位置づけている。

#### D. 考察

助産婦の教育・業務は各国さまざまであるとはいえ”Midwife”いわゆる”with woman”女性と共という語源がどこの国でも生きているといえよう。本調査では対象にならなかったが、世界の助産婦はオランダの助産婦の仕事が自律した専門職として確立している最高の見本だともみなし、その姿をめざしているようである。オランダは、現代の産科医が出産の時当たり前のように要求する入院と科学技術を用いた監視体制に抵抗するユニークな国になっているようである。助産婦による家庭での出産は、オランダのヘルスケアシステムにおける費用効率化をうみ、「出産は家庭で」ということを伝統化してきている。国によっては、助産婦と消費者からなるグループで自国による女性の健康やよりよい母性ケアの確立をめざし団結し支持され、法律や政策ができていく。多くの国は消費者から支援を受け今活気を取り戻している。米国では助産婦による出産の割合が毎年増加している。

出産は医療の近いところで自然に行われることが多くの国の助産婦の考える所である。出産を病院から開放する手段として助産婦によるバースセンターが開発されていることなど日本の助産婦も出産への支援について積極的に取り組むべき課題である。次に男性の助産婦については、女性と共に存在する助産の業務に男性が従

事する事は先進諸国では数年前から導入されているが多数ではない。業務においても妊産婦特に分娩には直接的に関わらないことは避け、思春期や不妊等の男性への教育や保健指導が主であるが、男性の助産への参画は情緒的な面において困難であることは否めない。

助産婦の勤務場所は多く病院に定着しつつあるが、ニュージーランドのように48%が開業して地域で活躍している国もある。助産婦は消費者の身近にいるには地域に根ざした所で活動することが望ましいと考える。日本においても助産婦の多くは病院施設で組織の一員として働き自律した活動ができないことや、不満足で働いていることなどから、今後日本の助産婦の働く場や働き方について政策的配慮は消費者の要求を取り入れる必要がある。開業のためにオランダでは、助産婦に対してバックアップし、医療費節減とともに妊産婦の自律を促している。助産婦は国策へ参画しているといえよう。

日本の助産婦はかつて開業を主にし、妊産婦のおよび家族の支援者として地域に在住してきた。助産婦の開業権を十分にいかし、生計を立ててきた。助産婦が開業し自律できる体制ができ現代の諸問題や少子化の解決の一端を担うことができるのではないかと思われる。日本においてもニュージーランドのように出産は、開業助産婦の手で行われることが望ましいと考える。

平成11年9月日本では低容量ピルの使用が認可されたが、その処方は医師であり助産婦には許可されていない。日常的に使用する経口避妊薬であってもその使用についての指導が大切である。助産婦が処方権を持つ国は多くはないが将来的には日本でも助産婦の処方し指導、その後のフォローをしていく必要があるのではないかと考える。そのためには、助産婦教育の中で薬理に関する科目が必要であり、今後検討を要するところである。また、業務内容は妊産婦・新生児に必要な救急医療をも含めて多くの事が実施されている。助産婦の教育と連動していることも確かである。わが国の助産婦教育においても十分カバーできる技術を持っていることもあり、今後先進諸国と並び業務を行っていくことが望ましいと考える。

#### E. 結論

先進諸外国における助産婦の資格制度及び教育は、助産婦の職能団体の影響が大であるため助産婦は専門職として自律するよう努力している。職能団体は、時代の変化やニーズに対応し変革をしている。助産婦業務も女性の健康に視点をあわせ助産婦業務の拡大を計ることや、バースセンター等助産婦による開発もされている。過剰な医療介入から正常分娩を保護していくことは、助産婦の今後の大きな役割であることが示唆された。すべての女性が助産婦による出産への支援を受けられ、母親と子どもの健康を守るため母子に対する支援のあり方に向かってのあり方の検討のみでなく行動を起こさなくてはならない時期にきているといえよう。

助産婦制度

No1

事項 国名	1.midwifeの名 称	2.助産婦を規定する法律 と制定年	3.助産婦籍登録機 関	4.助産婦 数	5.免許更新の有無 更新の期間と認 定方法	6.助産婦養成課程の種類・教育機 関・学校数			7.助産婦の主 な勤務場所	頻度	8.開業種	開業形態	9.薬の処方権 (主にビル)	10.回答者の職位
						学校の種類	学校数	入学生数						
日本 1億3千万人	助産婦	保健助産看護婦法 1948年	厚生省	女 23,287 男 0	無	大学院 大学 短大専攻科 助産婦学校 合計 1600+α	0 26 37 46 109	病院 診療所 助産所	66.9% 14.7% 12.1%	有	・正常分娩の管理 ・妊娠婦・新生児のケア ・保健指導 ・その他	無		
米国 2億7千万人	CNM(Certified Nurse-Midwife) CPM(Certified Professional Midwife) SLM(State Licenced Midwife)	DOA(Division of Accreditation) が認可する助産婦教育プログラ ムが多数ある (American College of Nurse- Midwives)により認定された助産 婦プログラムだけでなく66ある CNM(CNM認定助産婦) CPM(独自の認定機関がある) SLM(各州で認可された助産婦)	各州	7-8,000 男3%	有 州によって変わる	大学院 大学 短大専攻科	50 0 0	病院 パースセンター 自宅	① ② ③	有	・クリニク、パースセン ターで開業	有 国際保健の顧問		
英国 6千万人	Midwife	1902年助産婦法(定期的 に法改正) 1979年看護婦助産婦保健 婦法	英国中央看護婦助 産婦保健協議会 (U.K.C.C)	男100 女35,000	有 毎年開業の意向 を正式な通知で 更新 3年毎の定期教育 専門学習会(コー ス)出席・書類の 抜き打ち検査	大学院 大学 短期大学 助産婦学校	1年間通年 3年定時制 18カ月3年 (nurses, non nursing がある) 無 大学で教育 約70校	病院+コミュニ ティ 開業	98% 2%	有	・クリニク、パースセン ター、自宅で開業 (自宅分娩や契約のあ る病院、自由形態の パースセンター) ・その他	有 (英国病院協議会 認可薬) 一定の薬 (子宮の痛みの軽減、 出血、新生児の呼吸、 膈に作用する薬)	主任講師・助産 学講師・開業講 師などより	
スイス 7百万人	HEBANNE	特定の保健(医療)専門職 に関する法律	SWITZERLAND ROEL KREUT(SKR)	男0 女4000- 5000	無	大学 助産婦学校	nurses+ midwives ?? 2 7	病院 診療所 パースセンター	60% 20% 20% 開業助産婦	有	・正常分娩 ・周産期ケア ・分娩後のケア	有 (いくつかの地域で ビルの処方ができる)	助産婦長 大学理事	
オースト リア 1千8百万人	Midwife	オーストラリア看護婦法	各州の看護婦会	-	更新、毎年必ず	助産婦の教 育は大学で 行っている	-	病院 診療所 パースセン ター	80% 10% 10%	有	妊娠、分娩、産後の包 括的なケアを助産所や 依頼人宅、保健セン ター、病院で提供してい る	無	産科の管理者	
ニュー ジール ランド 3千7百万人	Registered midwife	看護婦法1971年看護婦法 改正1990年(助産婦法を 成文化した法律)	ニュージール ランド 看護婦協議会	男9 女1,940	開業証明を毎年 更新。毎年の会 費。2001年には開 業証明は5年に更 わるだろう。	大学院(修士) 助産婦学校	2 5	病院 助産所 産科ユニット	42% 48% 10%	有	出産を含めて女性のす べてのケアに責任を 持っている	有	ニュージール ランド 助産婦大学 管理者	

助産婦制度

No2

事項 国名	1. midwifeの名称	2. 助産婦を規定する法律と制定年	3. 助産婦登録機関	4. 助産婦数	5. 免許更新の有無 更新の期間と認定方法			6. 助産婦養成課程の種類・教育機関・学校数			7. 助産婦の主な勤務場所	頻度	8. 開業権	開業形態	9. 薬の処方権 (主にピル)	10. 回答者の職位
					学校の種類	学校数	入学生数	学校の種類	学校数	入学生数						
イスラエル 600万人	Nurse Midwife	保健専門職法	保健看護省	男2 女700	無	助産婦学校 2	±30	病院	100%	有 しかし いない			無	大学の講師		
モロッコ 2千7百万人	Midwife	助産婦看護婦法	公衆衛生省	男0 女385	有	助産婦学校 8		診療所 パースセンター	助産婦は 健康管理 の職につく ことができ る 少数 少数	有	助産所での正常分娩		無 (しかし、医者の処方 薬をわすれただけが与え ることができる)	多くの判断を 要する重要な 特別職 公衆衛生省 助産婦責任者		
ネパール 2千百万人	助産婦はい ない、近い人 としてナース ミッドウイフの 補助のANM Aigo TBA's (伝統的助産 婦がいる)	法はないが生命を救う すばらしい実技技術が ある。 現在法改正をしている。	保健省	ANM's 男0 女6,000	資格が無い	助産婦学校 無		90%の出産が 家族かANM's によるものであ る	地方の健 康管理	有	助産所での正常分娩		ピルは処方箋なしに 入手できる	プロジェクト 責任者 (ネパールの 母性の安全 事業)		
インドネシア 2億百万人	BIDAN	1996年に確立した保健省 の572の規則	保健省	男0 女6,000- 7,000	有 5年で更新 5年の免許制度	大学 短大 助産婦学校 多数 多数 62		病院 パースセン ター		有	明らかな正常な分娩		有 ピタミン剤	インドネシア 助産婦協会会長		
カンボジア 1千70万332 人	Midwife	無	登録なし	男0 女3,797	無	助産婦学校 (バンベン大 学1、地方の 看護婦助産 婦養成学校 4)	5	病院、プライベ イトクリニック、 ヘルスセン ターに分かれ る	?	有	妊婦健診 ・Family planningの指導 ・簡単な婦人科疾患の 処置、投薬 ・正常分娩		有	国立母子保健 センター 副看護部長		
バングラ デッシュ 1億2千万 人	Midwife F.W.V. (Family welfare visitor) 家族福祉 訪問員	有	バングラデッシュ 看護婦協議会	15,000	有 5年毎	大学 助産婦学校 F.W.V 18カ月	1 54	病院 産科診療所 パース センター (自宅)	75% 10% 15%	有	管理運営の義務		有	看護学講師		

## 助産婦の業務

助産婦業務	米国	英国	スイス	オーストラリア	ニュージーランド	イスラエル	モロッコ	インドネシア	カンボジア	バングラデッシュ
1.思春期の相談事業	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×
2.妊婦の診察・指導,検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.頭位分娩介助	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.骨盤位分娩介助	○	△ (時々)	×	×	○	×	○	○	○	○
5.吸引分娩の実施	△ (要教育)	△ (要教育)	×	×	△ (要教育)	×	○	○	○	×
6.鉗子分娩の実施	△ (要教育)	×	×	×	×	×	×	○	×	×
7.多胎分娩介助	○	△ (双胎胎位)	○	×	○	○	○	○	○	○
8.分娩時の麻酔使用	○	△	○	×	×	△	○	×	×	×
9.会陰切開・縫合	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
10.酸素吸入の処方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11.子宮収縮剤(注射)の使用	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×
12.分娩時の児の蘇生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13.褥婦の診察・保健指導	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
14.新生児の診察	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
15.光線療法の判断	×	○	×	○	○	×	×	×	○	×
16.妊産婦・褥婦への薬の処方	○	○	×	×	○	×	△ (時々)	○	○	○
17.婦人科検診	○	△ (時々)	×	×	○	×	×	○	○	○
18.更年期の保健指導	○	×	×	×	×	○	○	○	×	○
19.家族計画指導	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20.ピルの処方	○	×	△ (地域限定)	×	○	×	○	○	○	○
回答者の職位	国際保健顧問官	主任講師・助産学講師 開業講師	大学理事 助産婦長	産科の管理者	ニュージーランド 助産婦大学管理者	大学の講師	公衆衛生省・ 助産婦責任者	インドネシア 助産婦協会会長	国立母子保健 センター副看護部長	看護学講師

○:実施      △:一部実施(限定、特別な教育を受けて実施)      ×:実施していない



## Questionnaire about Midwife System

We are very interested in the midwife system and education in various parts of the world. If you could please answer the following questions about your country. We would be most appreciative.

Matters	Example: Japan	Name of your country ( ENGLAND )				
1. Population	one hundred million					
2. Name of school, term, and enrolment rate before entering midwife school.	name of school	term	enrolment rate	name of school	term	enrolment rate
	elementary school	6ys	100%	PRIMARY.	7 year	100%.
	junior high school	3ys	100%	age 4-11		
	senior high school	3ys		Secondary age 11-16	5 yrs	100%.
	nursing school	3ys		COLLEGE 16-18-	2 yrs.	80%.
				Nursing	3 yrs.	
			Midwives	4 yrs (Non Nurse)	1 1/2 yrs (Nurses)	
3. What do you call a person, in your country, who is defined as a midwife by ICM?	Midwife			Midwife		
4. The law regarding midwife	The law regarding public health nurse, midwife, and nurse (established in 1948)			1902 - MIDWIVES ACT. revised regularly + updated.		
5. Authority for registration of midwife	Ministry of Health and Welfare			United Kingdom Cont. med Council for Nurses, Midwives and Health		
6. Number of midwives	male(0), Female(23,287)			male 100 Female 35,000.		
7. Do you have to renew the midwife license or not in your country?  If you have a renewal system, how often and how to qualify it?	Renewal not required			3yrs - attend professional study days/courses.		

8. What kind of midwife's schools, and how many midwife's school do you have?	School (program)	# of school	# of admitted student	School	# of school	# of admitted student
	Graduate school (master)	0	0	UNIVERSITY	Most are like this - Unknown.	
	Nursing college (Bachelor)	34	not identified	—		
	Advanced course in junior nursing college (Associate degree)	34	not identified	—		
	Midwife school	42	not identified	SOME		
	Others	0	0	0	0	0
	Total	110	1600			
9. Where do midwives work mainly?	Hospital	66.9%		HOSPITAL	} run together some work in one, many work in both 99.9%	
	OBGY clinics	14.7%		COMMUNITY		
	"Birth Center"	12.1%		INDEPENDANT		0.1%
10. Does a midwife have a right to practice having her own office?  If they have a right to practice, how do they work?	Yes			YES.	In independant clinics, birth centre or from home. Not many do this	
	Management of normal delivery in her midwife office.					
11. Does a midwife have a right to write a prescription for a pill, for example for a patient?	No			No	—	
12. Your job position in your country					MIDWIFERY LECTURER.	

Would you be kind enough to send me the following matters,

1. Copy of a law regarding midwife education system and system of midwife in your country.
2. A curriculum of midwife school

Thank you very much for your kindness.

Professor Naomi KATO *Naomi Kato*

Okinawa Prefectural College of Nursing  
1-24-2-1 Yogi Naha Okinawa 902-0076 Japan  
Phone 098-833-8804  
FAX 098-833-8804

## Questionnaire about Midwife's Job

We are very interested in the midwife's job in various parts of the world. If you could please answer the following questions about your country. We would be most appreciative.

1. Name of your country ( ENGLAND )

2. Please circle following number if it is allowed as midwife job, and mark cross if it is not allowed in your country.

- ① health education for adolescents
- ② health check, health education, and lb test for pregnant woman
- ③ cephalic delivery
4. breech delivery — sometimes
5. vacuum delivery — some midwives
- ~~6.~~ forceps delivery
- ⑦ multiple delivery
- ⑧ use of anesthesia during delivery
- ⑨ episiotomy and repairing episiotomy
- ⑩ prescription of oxygen during delivery
- ⑪ prescription of uterus contraction
- ⑫ infant resuscitation
- ⑬ physical examination of postpartum woman and health education
- ⑭ physical examination of the newborn
- ⑮ judgement of blue light therapy for newborn
- ⑯ prescription for pregnant and postpartum woman
17. gynecological examination — sometimes.
- ~~18.~~ health education for the menopause
- ⑰ health education of family planning
- ~~20.~~ prescription for oral contraceptive

3. Your job position ( MIDWIFERY LECTURER. )

If I would like to ask you about your answer, may I call you in your hotel?

If your answer is "yes", please write your phone number in Manilla, and your home address.

phone in Manilla

Your phone number or FAX in your country

01705 796047.  
ENGLAND

Thank you very much for your kindness.

Professor Naomi KATO

*Naomi Kato*

Okinawa Prefectural College of Nursing  
1-24-1 Yogi Naha Okinawa 902-0076 Japan  
phone 098-833-8804  
FAX 098-833-8804

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）  
分担 研究報告書

助産婦の自己効力の特性に関する研究

分担研究者 加藤 尚 美 沖縄県立看護大学  
研究協力者 賀数 いづみ 沖縄県立看護大学

研究要旨：本研究は助産婦の生涯学習のあり方を検討する目的で職場で働く助産婦を897名を対象に、セルフ・エフィカシー（自己遂行可能感・自己効力）を明らかにし、助産婦の持つ特性について調査した。助産婦の自己効力の得点は他調査と比較してやや高い傾向にあった。助産婦の特性として、因子分析の結果「心配性の傾向」が見られた。また、「失敗に対する不安」や「心配性の傾向」などは年齢や職位が有意に関係していることも明らかになった。自己効力の得点は今後の教育計画を立ていく上で参考にしていく上で重要な要素である。本研究では年齢、職位などを考慮した継続教育の必要性について示唆された。

A. 研究目的

助産婦が専門職としての能力を十分に発揮していくために、自分自身がやりたいと思っていることの実現可能性に関する知識、あるいは自分にこのようなことがここまでできるという考えが必要である。

本研究では助産婦の自己遂行可能感を分析することにより助産婦の特性及び生涯学習の指針を得ることを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査対象と調査方法

調査対象は病院名鑑より産婦人科を標榜している病院を選択し、協力を得られた助産婦897名である。自己記入式留め置き調査は、1999年12月から2000年1月に実施、郵送にて回収した

2. 測定用具

自己遂行可能感を測定は、坂野らの[General Self-Efficacy Scale(GSES)]を用いた。

本尺度は16項目の構成で、「行動の積極性」「失敗に対する不安」「能力の社会的位置け」である。「はい」「いいえ」の2件法であり、得点範囲は0-16点である。セルフエフィカシーの高さは、個人が様々な場面において、自己行動の遂行可能性についてどのような見通しをもって行動を生起させているかという目安になる変数である。データの分析は統計パッケージ[SPSS]を使用した。

(倫理面への配慮)

予め病産院看護部長に電話もしくは直接に調査の依頼を行い、協力を得られる助産婦に依頼を求めた。調査データはコンピューター処理であり個人名あるいは回答者を特定する事はないことを保証した。

C. 研究結果

1. 対象者の属性

対象者は897名で平均年齢は33歳で(SD=8.58)助産婦としての勤務年数は9年10ヶ月(SD=7.7)であった。職位は婦長4.5%、副婦長2.8%、主任7.0%、臨床指導者9.8%、スタッフ74.0%であった。

助産婦教育課程は助産婦学校が最も多く64.4%、次に短期大学専攻科25.5%、保健婦助産婦合同課程が8.8%の順で少数ではあるが看護大学卒業生0.8%(7名)であった。(表1・2)

表1 対象者の属性

年齢	度数 (%)	累積度数
21～30歳	435(48.5)	435(48.5)
31～40歳	263(29.3)	698(77.8)
41～50歳	164(18.3)	862(96.1)
51歳以上	34(3.8)	896(99.9)
無回答	1(0.1)	897(100.0)
計		897(100)

  

助産婦としての勤務年数	度数 (%)	累積度数
0～1年未満	99(11.0)	99(11.0)
1～2年	69(7.6)	168(18.8)
2～3年	73(8.1)	241(26.9)
3～4年	64(7.1)	305(34.0)
4～5年	62(6.9)	367(41.0)
5～10年	217(24.1)	584(65.2)
10～15年	118(13.1)	702(78.3)
15～20年	87(9.6)	789(88.1)
20～25年	70(7.7)	859(95.9)
25～30年	27(3.0)	886(98.9)
30～35年	6(0.6)	892(99.6)
40年以上	4(0.4)	896(99.9)
無回答	1(0.1)	897(100.0)
計		897

表2 受講した助産婦教育機関

		助産婦 学校	保・助合同 専門学校	短期大 専攻科	看護系 大学	その他 無回答	合計	
年齢	21～30歳	度数 年齢の%	241 55.4%	24 5.5%	162 37.2%	7 1.6%	1 0.2%	435 100.0%
	31～40歳	度数 年齢の%	184 70.0%	29 11.0%	49 18.6%		1 0.4%	263 100.0%
	41～50歳	度数 年齢の%	126 76.8%	19 11.6%	17 10.4%		2 1.2%	164 100.0%
	51歳以上	度数 年齢の%	26 76.5%	7 20.6%	1 2.9%			34 100.0%
	無回答	度数 年齢の%	1 100.0%					1 100.0%
合計	度数 年齢の%	578 64.4%	79 8.8%	229 25.5%	7 0.8%	4 0.4%	897 100.0%	

2. 仕事の満足感

現在の仕事の満足度は満足が242名(27.%)不満であるものが580名(64.7%)で無回答が75名(8.4%)であった。満足をしている人の主な理由は、少数ではあるが助産婦としての仕事ができている。勤務体制がよい、自然分娩・母乳哺育に力をいれている。勤務体制が良い、分娩が多い。自分の意見を取り入れてくれる。妊娠中から産褥期(新生児含む)と継続的にケアできるなどであり、不満足な理由は助産婦としての仕事ができている、医師との連携が悪い、大きな組織のため助産婦としての業務ができない、勤務体制が悪い、妊産婦への関わりが少ない助産婦として主体性がない。自律できていない、看護体制として、プライマリーケアができていない、上司との関係が悪い、病院等施設内では助産婦の立場が認められない、助産婦採用でない、スタッフ不足、助産婦の仕事が生かされていない、発揮できていない、病棟での業務が煩雑などであった。少子化に伴い分娩数が減少し病院経営上混合病棟となり、妊産婦及び病人の看護で業務が複雑になり、混乱を招いている。などであった。

年齢別に満足度をみると51歳以上が12名(35.7%)でやや、満足度が高いが21歳から40歳代229名は26%から29.9%で同程度であり、不満度は、21歳～30歳代290名(66.7%)31～40歳代では173名(65.8%)41～50歳代は100名(61.0%)、51歳以上17名(50.0%)は不満であった。

表3 現在の仕事に対する満足の有無

	度数	%	累積%
満足	242	27.0	27.0
不満	580	64.7	91.6
無回答	75	8.4	100.0
合計	897	100.0	

3. 自己効力

自己効力として、坂野らの作成した「一般セルフ・エフィカシー尺度(GSES)」の以下16項目を使用して2件法でたずねた。

- ①何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである
  - ②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して、暗い気持ちになることがよくある
  - ③友人より優れた能力がある
  - ④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い
  - ⑤人と比べて心配性なほうである
  - ⑥何かを決めるときは、迷わずに決定するほうである
  - ⑦何かをするとき、うまくゆかないのではないかと不安になる
  - ⑧ひっこみじあんなほうだと思う
  - ⑨人より記憶力がよいほうである
  - ⑩結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う
  - ⑪とうやたらよいか決心がつかずに仕事に取りかかれないことがよくある
  - ⑫友人よりも優れた知識を持っている分野がある
  - ⑬どんなことでも積極的にこなすほうである
  - ⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである
  - ⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである
- 表4はその結果である。全体では「③友人より優れた能力がある—いいえ」(79.7%)、「④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い—いいえ」(77.0%)「⑨人より記憶力がよいほうである—いいえ」(73.5%)「⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある—いいえ」(72.5%)「⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである—いいえ」(63.7%)などの順で割合が高かった。年齢別にみると「④仕事を終えた後失敗したと感じるほうが多い」「⑦何かをするとき、うまくゆかないのではないかと不安になることが多い」は年齢が高くなるほど「はい」が低く「⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである」「⑩世の中に貢献できる力がある

と思う」は年齢が高くなるほど「はい」と回答している。

職位別にみて婦長・副婦長での高い得点は、「①何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである」(75.4%)「⑯世の中に貢献できる力があると思う」(65.7%)「⑬どんな事でも積極的にこなすほうだ」(58.5%)であった。

#### 4. 自己効力の因子分析

自己効力の項目を因子分析した結果が、表5・表6である。その結果、4因子が抽出された。

第1因子は「⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ」「⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである」「⑩結果の見通しがつかない仕事でも積極的に取り組んでゆくほうだと思う」「⑧ひっこみじあんなほうだと思う」の4項目が含まれ「行動の積極性」の因子といえる。第2因子は「④仕事を終えた後、失敗したと感じるほうが多い」「⑪どうやったらよいか決心がつかずに仕事をとりかかれないことがよくある」

「②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い気持ちになることがよくある」「①何か仕事をするときは、自信をもってやるほうである」の5項目が含まれ、「失敗に対する不安」の因子といえる。第3因子は「⑤人と比べて心配性なほうである」「⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである」の3項目が含まれ、「心配性の傾向」の因子といえる。

第4因子は「⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある」「⑯世の中に貢献できる力があると思う」「⑨人より記憶力が良いほうである」の4項目が含まれ、「能力の社会的位置づけ」といえる。

#### 5. 年代別、職位別の自己効力

年代別に因子分析をしてみると、4因子が抽出され、その因子の得点についての年代別の自己効力の得点の平均の結果が表7である。

各因子の得点の算出法は、基本的には得点が高くなると、その傾向性が強くなるように算出した。「行動の積極性」の得点では⑧・⑯項目は「はい」を「0点」、「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」「いいえ」を「0点」とした。「失敗に対する不安」の得点では、1項目は「はい」を「0点」、「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」、「いいえ」を「0点」とした。「心配性の傾向」の得点では、6項目は「はい」を「0点」、「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」「いいえ」を「0点」とした。「能力の社会的位置づけ」の得点では、すべての項目は「はい」を「1点」「いいえ」を「0点」とした。さらに「自己効力」の総得点は②④⑤⑦⑧⑪⑭⑯の項目は「はい」を「0点」「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」「いいえ」を「0点」とした。

その結果、年齢別の「失敗に対する不安」の得点では「20代」と「30代」、「20代」と「40代」の間の平均得点に有意な差があった。「能力の

社会的位置づけ」の得点では「20代」と「40代」「20代」と「50代」の間の平均得点間には有意な傾向が見られた。「自己効力」の総合得点では「20代」と「40代」、「20代」と「50代」の間の平均得点間には有意な差があった。また、「20代」と「30代」の間の平均得点には有意な傾向がみられた。なお「行動の積極性」「心配性の傾向」の各平均得点間には有意な差がみられなかった。

職位別にみると(表8・9)「能力の社会的位置づけの得点」では「係長・主任」と「臨床指導者」「係長・主任」と「スタッフ」との間に有意な差があった。「自己効力の総合得点」では「婦長・副婦長」と「スタッフ」、「係長・主任」と「スタッフ」に有意な差があった。「行動の積極性」「失敗に対する不安」「心配性の傾向」の各平均得点間では有意な差はみられなかった。

#### 6. 仕事の満足感別にみた自己効力

仕事の満足感別(表10・11)でみると、満足感を感じている助産婦では「④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い—いいえ」(83.5%)、「⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事に取りかかれないことがよくある—いいえ」(82.6%)「③友人より優れた能力がある—いいえ」82.2%)「友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある—いいえ」(74.0%)などの順に割合が高かった。また、不満を感じている助産婦では「⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事に取りかかれないことがよくある—いいえ」(78.8%)「③友人より優れた能力がある—いいえ」(78.6%)「⑨人より記憶力がよいほうである」(75.7%)「④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い—いいえ」(73.1%)「⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある—いいえ」(71.2%)などの順に高かった。仕事の満足感別の自己効力得点の平均の結果が表 である。この結果から「失敗に対する不安」の平均得点の有意な差があり、「自己効力の総合得点」では有意な傾向が見られた。

#### D. 考察

Self-efficacyはさまざまな場面において、行動変容を予測する要因として有効であることが示されており、Bandura(1977)によれば、Self-efficacyは2つの水準で人間の行動に影響を及ぼすと考えられている。すなわち、特定場面におけるSelf-efficacyの強さは、個人が一定の状況を克服しようとするか否かに影響を及ぼしているが、これがSelf-efficacyが行動に影響を及ぼす第1水準である。これはSelf-efficacyは当面の行動選択に直接影響を及ぼすということである。また、第2に、Self-efficacyがより長期的に個人の行動に影響を及ぼすということが考えられ、Self-efficacyは、個人がいかに多くの努力を払おうとするか、あるいは嫌悪的な状況にいかにか長く耐えることができるかを決定する要因となっている。そこで本研究では、

第2の水準を測定するために作られた測定尺度を用いて病院で働く助産婦のSelf-efficacyの測定を行った。

本調査による助産婦のSelf-efficacyの得点の平均値は、7.98(SD=2.78)であり、坂野等の大学生男女の平均得点6.58(SD=3.36)より高く小谷野の調査による看護婦では7.37(SD=3.90)助産婦は8.39(SD=4.03)であり助産婦のSelf-efficacyは他に比べて比較的高い得点である。これは社会的活動がSelf-efficacyに対する影響要因であるといわれており、本対象者は年齢の平均が33.23歳(SD=8.58)であることや、社会的活動体験のちがいによるものと思われる。

Self-efficacyの項目を因子分析した結果、第1因子は「行動の積極性」第2因子は「失敗に対する不安」第3因子は「心配性の傾向」第4因子は「能力の社会的位置づけ」であった。坂野等が対象とした大学生では3因子であったが、今回の対象である助産婦は4因子で大学生と助産婦との違いが明らかになったという。これは人の命と直接的に関わっている助産婦の特性ではないかと思われる。

年齢別にみるSelf-efficacyは「失敗に対する不安の得点」では20歳代と30歳代、20歳代と40歳代では有意に差があり、経験年数により不安が増加していくという傾向にあり、返せば慎重を期していることや、仕事への恐怖が強いかもいえよう。Self-efficacyの総合得点では20歳代と40歳代、20歳代と50歳代では有意に差があることは自己効力が高い20歳代、やや低い50歳代についてそれぞれ年代に必要な教育のあり方が示唆された。

次に職位別にみるSelf-efficacyの総合得点から見ると婦長・副婦長とスタッフ、主任・係長との間に有意差があることは職位別の研修や教育の必要がある。また、当然とは思われる社会的位置づけの得点が臨床指導者が最も高く、スタッフ、婦長・副婦長の順である。臨床指導者の年齢を見ると30歳代が多くを占め、仕事に慣れ指導者としての位置づけがそうさせているものと思われる。年齢が高くなることや、職位を得ることにより自己効力が下がっていく事は責任感の重さからくるものか、慣れからくるものか今後の課題としたい。

仕事の満足感別に見るSelf-efficacyは「失敗に対する不安」の平均得点では、満足している助産婦と不満感を持っている助産婦との間には有意な差があるが、総合得点を見ると、不満に思っている助産婦はSelf-efficacyが高くなっている。

以上のことから、Self-efficacyの得点で特に「失敗に対する不安」や「心配性の傾向」などは年齢を経たり職位が高くなると得点が高くなる傾向が見られ、逆に「能力の社会的位置づけの得点」は年齢を経たり職位が高くなると得点が減少する傾向にある。さらに、年齢を経たり職位が高くなると自己効力感が減る傾向にあることが解った。また、仕事を不満に感じている助産婦のほうが「自己効力の得点」が高い傾向である。これらのことから、年齢や職位が高

くなると自己効力感が減るのは、一つには上位になるようとする目標が達成されたことによることや管理者という職、いわゆる助産婦としての実務から離れることによる等が考えられる。さらに、失敗や心配傾向が高くなるということは、基本的には管理職となり、仕事上責任が重くなりそのためであるかとも考えられる。

また、仕事に不満を感じている助産婦のほうが自己効力感が高いのは、自己効力感が高いから現在に対する仕事への不満が高いからとも考えられる。自己効力感が高いということは前向きに行きようとする傾向性や、仕事や人生に対しての目標設定、仕事への積極的関与などが高いと考えられるが、現実の仕事は理想とは異なりギャップが生まれやすい。そこで不満が生じると考えられる。

このように見てくると、婦長・係長等職位のある者の自己効力感をどのように高めるか、また逆にスタッフの自己効力感をどのように保つのか、さらに、不満を感じている助産婦に対してどのような満足感を与えていったらよいか重要な問題である。

助産婦という母子のケアの専門家として、生涯学習を続け、社会に貢献していくために今後このような状況をふまえて教育の在り方について検討をしていく必要がある。

## E. 結論

助産婦の自己効力の特性及び今後助産婦の自己効力感を高めたり、維持していくためへの基礎的資料を提示した。助産婦の特性として、以下のことが明らかになった。

- 1)助産婦のSelf-efficacyは、既調査の大学生男女や看護婦との比較ではやや高い傾向である。
- 2)助産婦のSelf-efficacyの因子分析の結果、坂野等の因子分析の「失敗に対する不安」が「失敗に対する不安」と「心配性の傾向」の2因子に分離した。大学生の因子と社会経験・活動をしているもの、及び人の命と対峙している者の違いではないかと思われた。
- 3)助産婦のSelf-efficacyが中でも特に「失敗に対する不安」や「心配性の傾向」などは年齢を経たり職位が高くなると得点が高くなる傾向が見られた。
- 4)「能力の社会的位置づけの得点」は年齢がや職位が高くなると得点が低くなる傾向である。
- 5)年齢を経たり、職位が高くなると得点が低くなる傾向がある。
- 6)仕事に不満を感じている助産婦のほうが「自己効力」の得点が高い傾向にある。

これらのことから、今後助産婦に対して、自己の行動の遂行可能性についてどのような見通しを持って行動を生起させていけるか、目安となる変数が明らかになった。先進諸外国の助産婦達は免許いわゆる資格の更新を常に考え職業を続けていく限り学習を続けている。日本ではこのような制度が確立していないためため終身資格ともいえる免許制度である。母子の健康の担い手として常に学習が必要であり、そのためにも、助産婦の継続的な学習効率を考えた教育が

必要がある。

本研究は、年齢や職位などを考慮に入れ、効果的な継続教育のありかたの方向性を示唆した。自己効力を高めていく方略については今後のさらに検討を重ねていく必要がある。

#### 引用文献

- 1)坂野雄二：一般セルフ・エフィカシー尺度の妥当性の検討 早稲田大学人間科学研究2, 91-98  
1989
- 2)坂野雄二・東條光彦：一般セルフ・エフィカシー尺度作成の試み 行動療法研究12. 1, 73-82 :  
1986

#### 参考文献

- 1)Bandura, A. :Self-efficacy Societies,  
Cambrige University Press.  
本明寛・野口京子監訳、激動社会の中の自己効力、金子書房 1997
- 2)小谷野康子：看護婦の自己効力の特性とその関連因子、聖路加看護学会誌Vol. 3No. 1  
June 1999



表 4 年齢別の自己効力

		21~30歳		31~40歳		41~50歳		51歳以上		無回答		合計	
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
①何か仕事をするとき、自信を持ってやるほうである	はい	226	52.0	176	66.9	127	77.4	26	76.5	1	100.0	556	62.0
	いいえ	207	47.6	86	32.7	35	21.3	8	23.5	—	—	336	37.5
	無回答	2	0.5	1	0.4	2	1.2	—	—	—	—	5	0.6
②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	はい	214	49.2	119	45.2	61	37.2	13	38.2	—	—	407	45.4
	いいえ	220	50.6	144	54.8	103	62.8	21	61.8	1	100.0	489	54.5
	無回答	1	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
③友人より優れた能力がある	はい	70	16.1	61	23.2	37	22.6	9	26.5	—	—	177	19.7
	いいえ	365	83.9	202	76.8	123	75.0	24	70.8	1	100.0	715	79.7
	無回答	—	—	—	—	4	2.4	1	2.9	—	—	5	0.6
④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	はい	138	31.7	42	16.0	19	11.6	4	11.8	—	—	203	22.6
	いいえ	296	68.0	221	84.0	143	87.2	30	88.2	1	100.0	691	77.0
	無回答	1	0.2	—	—	2	1.2	—	—	—	—	3	0.3
⑤人と比べて心配性なほうである	はい	260	59.8	159	60.5	93	56.7	17	50.0	—	—	529	59.0
	いいえ	175	40.2	103	39.2	71	43.3	17	50.0	1	100.0	367	40.9
	無回答	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	はい	138	31.7	97	36.9	71	43.3	18	52.9	1	100.0	325	36.2
	いいえ	296	68.0	166	63.1	93	56.7	16	47.1	—	—	571	63.7
	無回答	1	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	はい	197	45.3	89	33.8	48	29.3	9	26.5	—	—	343	38.2
	いいえ	238	54.7	174	66.2	116	70.7	25	73.5	1	100.0	554	61.8
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑧ひっこみじあんなほうだと思う	はい	169	38.9	111	42.2	82	50.0	16	47.1	—	—	378	42.1
	いいえ	266	61.1	152	57.8	82	50.0	18	52.9	1	100.0	519	57.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑨人より記憶力がよいほうである	はい	125	28.7	66	25.1	36	22.0	9	26.5	—	—	236	26.3
	いいえ	309	71.0	196	74.5	128	78.0	25	73.5	1	100.0	659	73.5
	無回答	1	0.2	1	0.4	—	—	—	—	—	—	2	0.2
⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	はい	207	47.6	110	41.8	83	50.6	20	58.8	1	100.0	421	46.9
	いいえ	228	52.4	153	58.2	81	49.4	14	41.2	—	—	476	53.1
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれないことがよくある	はい	96	22.1	43	16.3	29	17.7	8	23.5	—	—	176	19.6
	いいえ	339	77.9	220	83.7	135	82.3	26	76.5	1	100.0	721	80.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	はい	99	22.8	80	30.4	53	32.3	13	38.2	—	—	245	27.3
	いいえ	336	77.2	182	69.2	110	67.1	21	61.8	1	100.0	650	72.5
	無回答	—	—	1	0.4	1	0.6	—	—	—	—	2	0.2
⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	はい	175	40.2	108	41.1	70	42.7	20	58.8	—	—	373	41.6
	いいえ	258	59.3	155	58.9	94	57.3	14	41.2	1	100.0	522	58.2
	無回答	2	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.2
⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	はい	176	40.5	120	45.6	76	46.3	13	38.2	—	—	385	42.9
	いいえ	259	59.5	143	54.4	87	53.0	21	61.8	1	100.0	511	57.0
	無回答	—	—	—	—	1	0.6	—	—	—	—	1	0.1
⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	はい	176	40.5	100	38.0	80	48.8	15	44.1	—	—	371	41.4
	いいえ	259	59.5	163	62.0	84	51.2	18	52.9	1	100.0	525	58.5
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	2.9	—	—	1	0.1
⑯世の中に貢献できる力があると思う	はい	211	48.5	153	58.2	105	64.0	27	79.4	—	—	496	55.3
	いいえ	221	50.8	110	41.8	58	35.4	7	20.6	1	100.0	397	44.3
	無回答	3	0.7	—	—	1	0.6	—	—	—	—	4	0.4
総数		435	100.0	263	100.0	164	100.0	34	100.0	1	100.0	897	100.0

表5 因子分析（バリマックス回転）の結果

因子名	項目	因子負荷量
行動の積極性 (24.0)	⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	0.741
	⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	-0.724
	⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	0.712
	⑧ひっこみじあんなほうだと思う	-0.525
失敗に対する不安 (11.8)	④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	0.748
	⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	0.622
	⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれぬことがよくある	0.620
	②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	0.597
	①何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである	-0.431
心配性の傾向 (8.0)	⑤人と比べて心配性なほうである	0.787
	⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	0.700
	⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	-0.358
能力の社会的 位置づけ (6.8)	③友人より優れた能力がある	0.808
	⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	0.767
	⑯世の中に貢献できる力があると思う	0.533
	⑨人より記憶力がよいほうである	0.376

( ) 内の数字は、寄与率 (%)

表6 因子分析（バリマックス回転）の結果

項目	行動の積極性	失敗に対する不安	心配性の傾向	能力の社会的 位置づけ
⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	0.741	-0.132	-0.031	0.217
⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	-0.724	0.034	0.284	-0.102
⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	0.712	-0.180	0.188	0.048
⑧ひっこみじあんなほうだと思う	-0.525	0.026	0.477	-0.124
④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	0.016	0.748	0.060	-0.102
⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	-0.069	0.622	0.415	-0.052
⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれぬことがよくある	-0.233	0.620	0.058	-0.020
②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	-0.037	0.597	0.309	-0.013
①何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである	0.394	-0.431	-0.029	0.277
⑤人と比べて心配性なほうである	0.067	0.145	0.787	-0.066
⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	-0.057	0.198	0.700	0.072
⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	0.252	-0.247	-0.358	0.072
③友人より優れた能力がある	0.006	-0.032	-0.080	0.808
⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	0.067	-0.069	-0.020	0.767
⑯世の中に貢献できる力があると思う	0.211	-0.186	0.054	0.533
⑨人より記憶力がよいほうである	0.281	0.051	-0.043	0.376
寄与率 (%)	24.0	11.8	8.0	6.8

表7 年代別の自己効力得点の平均

		21～30歳 (20代)	31～40歳 (30代)	41～50歳 (40代)	51歳以上 (50代)	合計	検定 (Tukey法)
行動の積極性の得点	平均	2.11	2.21	2.08	1.85	2.12	
	SD	0.89	0.94	0.88	0.80	0.90	
	人数	433	263	164	33	893	
失敗に対する不安の得点	平均	3.30	3.70	3.87	3.76	3.54	20代-30代*
	SD	1.37	1.01	1.09	1.10	1.23	20代-40代*
	人数	432	261	159	34	886	
心配性の傾向の得点	平均	1.32	1.31	1.40	1.65	1.34	
	SD	1.04	1.08	1.09	1.20	1.06	
	人数	434	262	163	34	893	
能力の社会的位置づけの得点	平均	2.84	2.63	2.58	2.33	2.71	20代-40代+
	SD	1.13	1.19	1.22	1.24	1.17	20代-50代+
	人数	431	261	158	33	883	
自己効力の総合得点	平均	8.37	7.84	7.41	6.76	7.98	20代-30代+
	SD	2.82	2.70	2.68	2.53	2.78	20代-40代*
	人数	426	260	153	33	872	20代-50代*

- 注) 1) 検定の水準は、\* : 5%以下、+ : 10%以下  
 2) 検定内の数字は、20代...21～30歳, 30代...31～40歳, 40代...41～50歳, 50代...51歳以上  
 3) 検定内の文字は、有意差のある世代間

表8 職位別の自己効力得点の平均

		婦長・ 副婦長	係長・ 主任	臨床 指導者	スタッフ	その他	合計	検定 (Tukey法)
行動の積極性の得点	平均	1.98	1.99	2.19	2.14	2.00	2.12	
	SD	0.92	0.86	0.93	0.90	1.00	0.90	
	人数	64	67	88	992	13	894	
失敗に対する不安の得点	平均	3.78	3.68	3.75	3.47	3.92	3.54	
	SD	0.92	1.05	1.24	1.27	0.86	1.23	
	人数	63	66	87	658	13	887	
心配性の傾向の得点	平均	1.58	1.51	1.31	1.31	1.38	1.34	
	SD	1.10	1.11	1.09	1.06	0.87	1.07	
	人数	64	67	88	662	13	894	
能力の社会的位置づけの得点	平均	2.44	2.29	2.85	2.77	2.46	2.71	係長・主任—臨床指導者*
	SD	1.33	1.22	0.98	1.16	1.39	1.17	係長・主任—スタッフ*
	人数	62	99	88	655	13	884	
自己効力の総合得点	平均	7.05	7.09	7.98	8.17	7.15	7.98	婦長・副婦長—スタッフ*
	SD	2.65	2.83	2.58	2.79	2.61	2.78	係長・主任—スタッフ*
	人数	60	66	87	647	13	873	

- 注) 1) その他の中には、無回答1名を含む。  
 2) 検定の水準は、\* : 5%以下、+ : 10%以下  
 3) 検定内の数字は、20代...21～30歳, 30代...31～40歳, 40代...41～50歳, 50代...51歳以上  
 4) 検定内の文字は、有意差のある世代間

表9 職位別の自己効力

		課長・副課長		係長・主任		臨床指導者		スタッフ		その他・無回答		合計	
		頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%
①何か仕事をするとき、自信を持ってやるほうである	はい	49	75.4	52	77.6	62	70.5	383	57.7	10	76.9	556	62.0
	いいえ	15	23.1	15	22.4	26	29.5	277	41.7	3	23.1	336	37.5
	無回答	1	1.5	—	—	—	—	4	0.6	—	—	5	0.6
②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	はい	27	41.5	31	46.3	32	36.4	312	47.0	5	38.5	407	45.4
	いいえ	38	58.5	36	53.7	56	63.6	351	52.9	8	61.5	489	54.5
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
③友人より優れた能力がある	はい	18	27.7	21	31.3	11	12.5	124	18.7	3	23.1	177	19.7
	いいえ	45	69.2	46	68.7	77	87.5	537	80.9	10	76.9	715	79.7
	無回答	2	3.1	—	—	—	—	3	0.5	—	—	5	0.6
④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	はい	6	9.2	8	11.9	18	20.5	170	25.6	1	7.7	203	22.6
	いいえ	59	90.8	59	88.1	69	78.4	492	74.1	12	92.3	691	77.0
	無回答	—	—	—	—	1	1.1	2	0.3	—	—	3	0.3
⑤人と比べて心配性なほうである	はい	32	49.2	36	53.7	58	65.9	396	59.6	7	53.8	529	59.0
	いいえ	33	50.8	31	46.3	30	34.1	267	40.2	6	46.2	367	40.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	はい	28	43.1	29	43.3	32	36.4	231	34.8	5	38.5	325	36.2
	いいえ	37	56.9	38	56.7	56	63.6	432	65.1	8	61.5	571	63.7
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	はい	16	24.6	22	32.8	33	37.5	270	40.7	2	15.4	343	38.2
	いいえ	49	75.4	45	67.2	55	62.5	394	59.3	11	84.6	554	61.8
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑧ひっこみじあんなほうだと思う	はい	29	44.6	27	40.3	41	46.6	275	41.4	6	46.2	378	42.1
	いいえ	36	55.4	40	59.7	47	53.4	389	58.6	7	53.8	519	57.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑨人より記憶力がよいほうである	はい	14	21.5	18	26.9	25	28.4	174	26.2	5	38.5	236	26.3
	いいえ	51	78.5	49	73.1	63	71.6	488	73.5	8	61.5	659	73.5
	無回答	—	—	—	—	—	—	2	0.3	—	—	2	0.2
⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	はい	37	56.9	31	46.3	43	48.9	303	45.6	7	53.8	421	46.9
	いいえ	28	43.1	36	53.7	45	51.1	361	54.4	6	46.2	476	53.1
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれないことがよくある	はい	15	23.1	16	23.9	12	13.6	130	19.6	3	23.1	176	19.6
	いいえ	50	76.9	51	76.1	76	86.4	534	80.4	10	76.9	721	80.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	はい	26	40.0	27	40.3	20	22.7	167	25.2	5	38.5	245	27.3
	いいえ	38	58.5	39	58.2	68	77.3	497	74.8	8	61.5	650	72.5
	無回答	1	1.5	1	1.5	—	—	—	—	—	—	2	0.2
⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	はい	38	58.5	34	50.7	29	33.0	266	40.1	6	46.2	373	41.6
	いいえ	27	41.5	33	49.3	59	67.0	396	59.6	7	53.8	522	58.2
	無回答	—	—	—	—	—	—	2	0.3	—	—	2	0.2
⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	はい	23	35.4	26	38.8	35	39.8	295	44.4	6	46.2	385	42.9
	いいえ	41	63.1	41	61.2	53	60.2	369	55.6	7	53.8	511	57.0
	無回答	1	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	はい	20	30.8	30	44.8	40	45.5	275	41.4	6	46.2	371	41.4
	いいえ	44	67.7	37	55.2	48	54.5	389	58.6	7	53.8	525	58.5
	無回答	1	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑯世の中に貢献できる力があると思う	はい	44	67.7	49	73.1	45	51.1	351	52.9	7	53.8	496	55.3
	いいえ	21	32.3	18	26.9	43	48.9	309	46.5	6	46.2	397	44.3
	無回答	—	—	—	—	—	—	4	0.6	—	—	4	0.4
総数		65	100.0	67	100.0	88	100.0	664	100.0	13	100.0	897	100.0